

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和元年6月14日現在

機関番号：17401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K02603

研究課題名(和文)越境と共生の文化学—ラフカディオ・ハーンと夏目漱石を中心に

研究課題名(英文)A multidisciplinary study on Lafcadio Hearn and Natsume Soseki

研究代表者

坂元 昌樹 (SAKAMOTO, Masaki)

熊本大学・大学院人文社会科学研究部(文)・准教授

研究者番号：70346972

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、ラフカディオ・ハーン(1850-1904)と夏目漱石(1867-1916)の文学と思想について、近年の異文化接触研究や多文化共生研究の視点を導入しながら、並列的に分析することを目的とした。一連の研究を通して、ラフカディオ・ハーンと夏目漱石の両者が、帝国と植民地のシステムによって特徴づけられた近代の世界において、移住や移民、亡命などの集団的な経験について思索し、それらを表現した重要な文学者・思想家であったことを考証した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、ラフカディオ・ハーンと夏目漱石の文学と思想についての新たな学際的研究を目指した。現代において異文化接触に伴う社会的・文化的な課題についての理解の必要性は高まっており、国家から地域に至る各レベルで多文化間の共生の可能性を再考する重要性も増している。ハーンと漱石は、いずれも生涯を通して多様な社会と文化との接触の経験を持ち、その経験に基づいた思索と表現を続けた人物である。本研究が、この両者について学際的視点から検討し、異文化接触と多文化共生に関して人文学の立場からの研究の基盤形成を図ったことには十分な意義があると考えられる。

研究成果の概要(英文)：This study was intended to analyze the literature and thought of Lafcadio Hearn (1850-1904) and Natsume Soseki (1867-1916) in parallel by learning from the viewpoint of recent research on cross-cultural interaction and multicultural symbiosis. A series of our studies demonstrated that Lafcadio Hearn and Natsume Soseki both contemplated and expressed the collective experiences such as immigration, emigration, and exile in the modern world characterized by the system of empire and colony.

研究分野：日本文学・比較文学・文学一般

キーワード：ラフカディオ・ハーン 夏目漱石 異文化接触 多文化共生 比較文学 文学一般 文化研究

1. 研究開始当初の背景

近現代の多様な水準での移動(一般的な移住や移民から亡命や難民まで)の機会の拡大は、同時に異なる文化間の様々な接触が生む課題の増大(社会的・文化的な価値観の衝突や対立)をも意味する。そのような異文化接触に伴う社会的・文化的な課題についての理解の必要性は現在も高まっており、国家から地域に至る各レベルで、多文化間の共生の可能性を再考する重要性も一層増している。社会科学のみならず、人文学においてもそのような越境と共生の学の検討は重要である。本研究の研究代表者並びに研究分担者が所属する熊本大学には、近代世界における異文化接触を歴史的に考察する上で重要な二人の人物、ラフカディオ・ハーン(1850-1904)と夏目漱石(1867-1916)についての旧制第五高等学校以来の貴重な資料と研究上での蓄積が存在する。ギリシャに生まれて幼少でアイルランドに渡り、英国に次いで北米での生活を経て日本での定住と帰化に至ったハーンは、その生涯を通して、多様な社会と文化との接触を通して、その文化的言説を生んだ代表的個人である。また、作家としての活動を通して日本と西洋の間の社会的・文化的な差異について思索を続けた近代日本を代表する文学者・思想家としての漱石の生涯が、英国滞在の経験を含めて、異質な社会と文化との接触と対峙に特徴を持つことは言うまでもない。ラフカディオ・ハーンと夏目漱石についての人文学における研究は、従来から多様な領域において進められて既に膨大な蓄積を持つ。それらの先行研究から学ぶものは多いが、両者について異文化接触や多文化共生研究からの視点を導入して再検討することで、ハーンと漱石について新たな研究上の展望を獲得することを目指した。

2. 研究の目的

ラフカディオ・ハーンと夏目漱石の文学と思想について、異文化接触や多文化共生研究からの視点を積極的に導入しながら、「越境と共生の文化学」の構想の一部としてアプローチすることを目的とした。ハーンと漱石の両者は、帝国と植民地によって特徴づけられる19-20世紀の近代世界において、多くの個人が体験した移住や移民、亡命や難民などの経験についての集団的な経験を、典型的かつ集中的に表現した歴史的な存在である。ハーンと漱石についての先行研究を継承しつつ、また研究代表者と研究分担者の所属機関である熊本大学に存在する各種の文化的資源を活用しながら、ハーンと漱石についての研究の新たな発展を目指した。

3. 研究の方法

ラフカディオ・ハーンと夏目漱石について、異文化接触と多文化共生という視点から共同で調査研究を進めた。平成28年度についてはハーン・漱石研究から見た東アジアにおける越境と共生をテーマとして、近代日本と中国との文化的越境の諸ケースを研究した。平成29年度については、引き続きハーン・漱石研究から見た東アジアにおける越境と共生というテーマに取り組みつつ、新たにハーン・漱石研究から見たヨーロッパにおける越境と共生をテーマに加え、近代の英米とフランスとの文化的越境の諸ケースを研究した。平成30年度については、第1年目と第2年目の共同研究の成果についての整理と総合を目指した。また、漱石・ハーン研究を基礎とした異文化接触と多文化共生研究の基盤形成を、3年間の期間を通じて持続的に進めた。

4. 研究成果

(1)3年間の研究期間において、ラフカディオ・ハーンと夏目漱石の文学と思想について、異文化接触や多文化共生研究の視点を導入しながら、年度毎の計画に従って共同研究を進めた。

(2)平成28年度は、ハーン・漱石研究から見た東アジアにおける越境と共生を主なテーマとして、ハーン・漱石を通して見える文化的越境の諸ケースについて、共同研究参加者各自が研究を進めた。年度計画中の東アジア地域での国際研究活動については、研究代表者の坂元昌樹と研究分担者の西槇偉が、中国の杭州師範大学で開催された国際学術検討会に参加し、同分科会で漱石に関する研究発表を行った。杭州師範大学の関係者や同学会に参加した研究者との学術交流を行い、本研究課題に関係する中国での資料調査を実施した。研究分担者の福澤清は、島根県松江市における各種の資料調査を行うなど、ハーンを中心としつつ漱石をも含めた調査研究を遂行した。研究分担者の濱田明は、次年度の研究計画で予定されるヨーロッパにおける文化的越境というテーマを視野に収めつつ、ハーンとフランスに関する各種研究を実施した。研究分担者の永尾悟と平野順也は、それぞれの英語圏の文学・文化についての個別研究を通して、次年度以降の共同研究計画へ向けての準備を進めた。研究代表者と各研究分担者は、定期的に研究打ち合わせを実施し、共通の所属機関である熊本大学におけるハーンと漱石についての文化的資源の活用方法の検討を含めて、共同研究を進める上で必要な情報の共有に努めた。

(3)平成29年度は、共同研究の基本方針に基づきながら、所属機関の熊本大学における教育研究組織の設置とも連動しつつ共同研究を進めた。第一に、平成28年度から継続のハーン・漱石研究から見た東アジアにおける越境と共生というテーマに関して、研究代表者の坂元昌樹と研究分担者の西槇偉を中心に研究を進めた。東アジアでの国際研究活動として、坂元昌樹と西槇

偉が中国の延辺大学で開催された国際学会に参加して漱石に関する研究発表を行い、同学会に参加した研究者との学術交流を行った。また、本研究課題に関係して、中国東北地方（大連・瀋陽・營口など）での資料調査ならびに現地研究者等との研究上の交流を2回にわたって実施した。第二に、平成28年度はハーン・漱石研究から見たヨーロッパにおける越境と共生というテーマに関して共同研究の形で検討を進めた。研究分担者の福澤清は、近代アイルランド文化におけるハーン評価の検討に関して、アイルランド各地（ダブリン・スライゴ・ウォーターフォードなど）での資料収集と研究交流を行った。また、研究分担者の濱田明は、フランスのパリ13大学での研究集会に参加して、ハーン・漱石を視野に収めて文学とルポルタージュに関する研究報告・学術交流を行った。また、研究分担者の永尾悟と平野順也は、本研究課題に係る英語圏の文学・文化についての個別研究を進めた。そして第三に、所属機関の熊本大学では平成28年12月に学内組織として文学部附属漱石・八雲教育研究センターが設立されたが、本研究課題の研究代表者と各研究分担者は、本研究課題の遂行とも様々に関係する同センターの教育研究活動にも関与して、引き続き、共同研究上で必要な情報共有と発信に努めた。

(4)平成30年度は研究期間の最終年度となったが、共同研究の基本方針に基づきながら、参加者各自が発展的研究を進めると同時に、期間中の研究成果の総合に取り組んだ。第一に、平成28年度から継続のハーン・漱石研究から見た東アジアにおける越境と共生というテーマに関しては、研究代表者の坂元昌樹と研究分担者の西槇偉が中国の内蒙古大学で開催された国際学会に参加して研究発表と学術交流を行うなど、同テーマに関する研究の一層の深化を図った。第二に、平成29年度から継続のハーン・漱石研究から見たヨーロッパにおける越境と共生というテーマに関しても、研究分担者の濱田明と福澤清が、各自の専門領域に関連して発展的な研究に取り組んだ。同様に研究分担者の永尾悟と平野順也も、本研究課題に係るそれぞれの英語圏の文学・文化についての個別研究を深めた。そして第三に、それら一連の共同研究と成果発信を基礎として、研究代表者と研究分担者による3年間の共同研究の成果を中心とする論集『夏目漱石の見た中国』を刊行し、研究成果の公開と発信に努めた。さらに第四に、所属機関の熊本大学に設立された文学部附属漱石・八雲教育研究センターの教育研究活動と連携しつつ、研究期間3年間の研究活動の報告と総括を兼ねた公開フォーラム「漱石・ハーン研究の新展開」を開催し、ハーンと漱石を中心とした共同研究成果の総合の試みを進めた。

(5)以上の通り、本研究課題の共同研究は、3年間の補助事業期間の全体を通して、漱石とハーンの研究を基礎とした異文化接触と多文化共生研究の基盤形成において、確かな成果を得ることが出来たと判断するものである。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計13件)

坂元昌樹、After the Earthquakes: Hearn's "A Living God" and Soseki's "Life", Lafcadio Hearn Studies、査読無、4号、2018年、17-22

西槇 偉、"A Barbershop in Shangri-La: Feng Zikai's reception of Kusamakura, Lafcadio Hearn Studies、査読無、4号、2018年、29-33

平野順也、"How do You Write the Character for Kin in Kinrai?" He Asks., Lafcadio Hearn Studies、査読無、4号、2018年、35-40

西槇 偉、豊子愷「憶児時」と夏目漱石以及李叔同、『光風霽月 第六屆弘一大師研究国際学術会議論文集』杭州師範大学弘一大師・豊子愷研究中心編、上海三聯書店、査読無、6巻、2018年、375-385

西槇 偉、夏目漱石『満韓ところどころ』紀行(1)熊岳城温泉と黄旗山の梨園、総合文化誌『KUMAMOTO』、くまもと文化振興会、査読無、21、2017年、33-40

坂元昌樹、夏目漱石『満韓ところどころ』紀行(2)大連の風景と日本人たち、総合文化誌『KUMAMOTO』、くまもと文化振興会、査読無、23、2018年、51-60

福澤清、12、ハーンと漱石と、知の技法の伝承シリーズ(熊本大学大学院社会文化科学研究科編) 2017年、1-43

福澤清、茂山千五郎家狂言アイルランド公演 アイルランドと日本の邂逅 W.B.イェイツ、ラフカディオ・ハーンと狂言、アイルランド・日本外交関係樹立60周年記念事業報告書、2017年、1-19

福澤清、漱石とハーンと 日本古典文学(特に能・狂言)との観点から、日本英学史学会九州支部発足40周年記念論文集録、2018年、130-131

西槇 偉、獻給蟻の賛歌 豊子愷の小品 清晨 与小泉八雲 蟻、第三屆豊子愷研究国際学術会議論文集、査読有、2016年

11 福澤 清、ハーンと漱石と、ハーン通信 石仏、査読無、24、2017、16-17

12 濱田 明、ラフカディオ・ハーンとフランス、Cahier(日本フランス語フランス文学会)、査読無、19、2017、4-8

13 濱田 明、ハーンの「柔術」、『ヘルン研究』(富山大学ヘルン(小泉八雲)研究会)、査読無、2、2017、77-80

〔学会発表〕(計 29 件)

- 坂元昌樹、近代作家の 中国 紀行--保田與重郎『蒙疆』を中心に、中国日本文学研究会第 16 回国際学術研討会(内蒙古大学)(国際学会) 2018 年
- 西槇 偉、漱石の嘗口滞在をめぐって 『満韓ところどころ』を読む、中国日本文学研究会第 16 回国際学術研討会(内蒙古大学)(国際学会) 2018 年
- 坂元昌樹、パネルディスカッション「夏目漱石の見た中国 『満韓ところどころ』を読む」、熊本大学文学部附属漱石・八雲教育研究センター第 2 回公開フォーラム「漱石・ハーン研究の新展開」、2019 年
- 西槇 偉、パネルディスカッション「夏目漱石の見た中国 『満韓ところどころ』を読む」、熊本大学文学部附属漱石・八雲教育研究センター第 2 回公開フォーラム「漱石・ハーン研究の新展開」、2019 年
- 平野順也、パネルディスカッション「夏目漱石の見た中国 『満韓ところどころ』を読む」、熊本大学文学部附属漱石・八雲教育研究センター第 2 回公開フォーラム「漱石・ハーン研究の新展開」、2019 年
- 永尾 悟、パネルディスカッション「夏目漱石の見た中国 『満韓ところどころ』を読む」、熊本大学文学部附属漱石・八雲教育研究センター第 2 回公開フォーラム「漱石・ハーン研究の新展開」、2019 年
- 福澤 清、漱石・ハーンと能・狂言について、熊本大学文学部附属漱石・八雲教育研究センター第 2 回公開フォーラム「漱石・ハーン研究の新展開」、2019 年
- 坂元昌樹、保田與重郎の 中国 体験--中国・内モンゴルで考える、熊本近代文学研究会、2018 年
- 坂元昌樹、保田與重郎「絶対平和論」を読む テクスト としての 戦争 と 平和、日本文学協会近代部会、2018 年
- 西槇 偉、夏目漱石の中国旅行 『満韓ところどころ』を読みなおす、2018 年度日本比較文学会九州支部秋季大会、2018 年
- 11 濱田 明、ハーンの回想の中の家族、熊本大学学術資料研究推進室公開講演会、2018 年
- 12 坂元昌樹、移民 の表象とその諸相--夏目漱石を中心に、第五回中日韓朝言語文化比較研究国際シンポジウム(国際学会) 2017 年
- 13 西槇 偉、瞑想の領分 豊子愷『縁縁堂続筆』と夏目漱石『硝子戸の中』、第五回中日韓朝言語文化比較研究国際シンポジウム(国際学会) 2017 年
- 14 坂元昌樹、夏目漱石の 大連 体験 あるいは 化物屋敷 はどこにあるのか?、熊本大学文学部附属漱石・八雲教育研究センター第 1 回公開フォーラム、2018 年
- 15 西槇 偉、漱石の嘗口滞在をめぐって 『満韓ところどころ』紀行、熊本大学文学部附属漱石・八雲教育研究センター第 1 回公開フォーラム、2018 年
- 16 濱田 明、漱石・ハーンとフランス、熊本大学文学部附属漱石・八雲教育研究センター第 1 回公開フォーラム、2018 年
- 17 平野順也、『門』再読、熊本大学文学部附属漱石・八雲教育研究センター第 1 回公開フォーラム、2018 年
- 18 坂元昌樹、漱石と中国東北地方、熊本大学附属図書館公開講演会「ハーンと漱石の足跡」、2017 年
- 19 西槇 偉、漱石と中国東北地方、熊本大学附属図書館公開講演会「ハーンと漱石の足跡」、2017 年
- 20 濱田 明、ハーンとフランス、熊本大学附属図書館公開講演会「ハーンと漱石の足跡」、2018 年
- 21 坂元昌樹、日本近代文学と 中国 蓮田善明にも触れつつ、熊本近代文学研究会、2017 年
- 22 濱田 明、Le reportage littéraire au Japon au XXe siècle、Paris 13, séminaire de Marc Kober, 《littérature et reportage》 2018 年
- 23 濱田 明、ハーンの「柔術」、富山大学ヘルン(小泉八雲)研究会(国際学会) 富山大学、2017 年
- 24 坂元昌樹、夏目漱石と移民の表象 『満韓ところどころ』再読、中国日本文学研究会国際学術検討会(国際学会) 中国・杭州師範大学、2016 年
- 25 西槇 偉、満州に向かう漱石作品の登場人物たちのゆくえ 漱石の満韓旅行およびその後の日本文学を視野に、中国日本文学研究会国際学術検討会(国際学会) 中国・杭州師範大学、2016 年
- 26 西槇 偉、獻給蟻的賛歌 豊子愷的小品 清晨 与小泉八雲 蟻、第三届豊子愷研究国際学術會議(国際学会) 中国・杭州師範大学、2016 年
- 27 濱田 明、ラフカディオ・ハーンとフランス、日本フランス語フランス文学会(招待講演) 東北大学、2016 年
- 28 濱田 明、ハーンが教えたフランス文学、富山大学ヘルン(小泉八雲)研究会(国際学会) 富山大学、2016 年
- 29 坂元昌樹、天災 をめぐる想像力、熊本大学附属図書館公開講演会「ハーン先生と漱石先生」、2016 年

〔図書〕(計 5 件)

西槇 偉・坂元昌樹編、集広舎、『夏目漱石がみた中国 『満韓ところどころ』を読む』、2019年、296、(担当:坂元昌樹「第一章 大連の日の下で」、西槇 偉「第三章 黍遠し河原の風呂へ渡る人」第四章 怪物の幻影」第六章 老人を轆いた馬車の乗客は誰か」、濱田 明「仏訳「満韓ところどころ」」、平野順也「満洲に渡った安井」)

坂元昌樹、翰林書房、『文学史 の哲学 日本浪漫派の思想と方法』、2019年、264、(本研究課題と関連する章:「第八章 夏目漱石と日本浪漫派」第九章 ラフカディオ・ハーンと日本浪漫派」)

西槇 偉、勉誠出版、『小泉八雲と神々の世界 ラフカディオ・ハーン 植民地化・キリスト教化・文明開化』平川祐弘決定版著作集第12巻、2018年、776、(担当:「異文化接触を読み解くキーパーソンとして 豊子愷とハーン」)

濱田 明、柏書房、赤い鳥事典編集委員会編『赤い鳥事典』、2018年、664、(担当:分担執筆範囲:アナートル・フランス、ジュール・ルメートル)

坂元昌樹・西槇 偉、『漱石の記憶 夏目漱石記念年記念誌』、2018年、200、(担当:坂元昌樹「天災 をめぐる思考 熊本時代の漱石についての断片」105-107、西槇 偉「罌蓬草と豚 漱石が見た満洲の風景をもとめて」101-104)

〔産業財産権〕 該当なし

出願状況(計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年:
国内外の別:

取得状況(計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年:
国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名:西槇 偉

ローマ字氏名:NISHIMAKI Isamu

所属研究機関名:熊本大学

部局名:大学院人文社会科学研究部(文)

職名:教授

研究者番号(8桁):50305512

(1)研究分担者

研究分担者氏名:濱田 明

ローマ字氏名:HAMADA Akira

所属研究機関名:熊本大学

部局名:大学院人文社会科学研究部(文)

職名:教授

研究者番号 (8桁): 60264264

(1)研究分担者

研究分担者氏名: 福澤 清

ローマ字氏名: FUKUZAWA Kiyoshi

所属研究機関名: 熊本大学

部局名: 大学院人文社会科学研究部 (文)

職名: 教授

研究者番号 (8桁): 80136697

(1)研究分担者

研究分担者氏名: 永尾 悟

ローマ字氏名: NAGAO Satoru

所属研究機関名: 熊本大学

部局名: 大学院人文社会科学研究部 (文)

職名: 准教授

研究者番号 (8桁): 80389519

(1)研究分担者

研究分担者氏名: 平野 順也

ローマ字氏名: HIRANO Junya

所属研究機関名: 熊本大学

部局名: 大学院人文社会科学研究部 (文)

職名: 准教授

研究者番号 (8桁): 40432992

(2)研究協力者 該当なし

研究協力者氏名:

ローマ字氏名:

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。